

Product Liability NEWS

初号

20.JAN.2022

PL 対策

検索



【発行元】

一般社団法人 PL 対策推進協議会（略称：APL）

〒982-0823 宮城県仙台市太白区恵和町 35-28

☎050-6865-5180 FAX：022-247-8042

✉c-japan@pl-taisaku.org

新年明けましておめでとうございます。

COVID-19の第6波が全世界を襲っています。当初の殺人ウィルスの様相は2年の時を経ていわゆる弱毒化したようにも思えますが予断を許しません。



製品安全対策については、2018年より国も製品安全のスマート化を行い製品リコールの効果的な製品リコールにより市場での事故未然防止、再発防止を行うことを推奨するとしています。

とはいえ、販売直後でも製品ユーザーを把握することは困難であり、ましてや5年、20年経過後のユーザーとのリスクコミュニケーションを行うシステムの必要性は、製品安全対策としてもPL対策としても避けて通れません。ECの台頭・高齢化で労働人口減少によりこの先は今よりもずっと対面対応は困難になります。

全世帯配布の葉書などはSDGsの観点でも費用対効果でもはや有効的な手段ではなくなりました。分野を超えた様々な製品が生み出され専門職の知識レベル維持に際しても、常に新たな情報を得て最新の取り組みでのPDCAを持続させることも大変な負担です。

このような企業の消費者対応に対する大きな負担を低減するために当協議会では製品の「企画設計～製造～品質保証～出荷後のトレーサビリティなど」の新たな視点での体制整備を支援するシステムを用意しました。「最新！PL対策2022導入ガイド」をwebサイトにて掲載しています。法律のポジティブリスト化が進み電動工具などの輸入品の対応も大きな課題です。それらも含め、この協議会では賛助会員企業などと具体的な取り組みを研究・実践しています。皆様のご利用をお待ちしています。

会長 渡辺 吉明

謹賀新年



最新！PL対策について

【PL対策の定義】

PL対策においては「人の生み出したものは全てProduct」とし、廃棄されるまでその責任は生産販売した事業者の責任とし、その責務を達成するために、日本では「消費者基本法第5条」に定めたことを遵守し、生産もしくは輸入販売した事業者が消費者安全に取り組むことをPL対策とします（説明は本書面では省略）。

【製品安全のスマート化】

Society5.0 超スマート社会になったとたん、パンデミックとなり私たちの生活、仕事では既にICTを利用することが日常になっています。大切なユーザーに伝えなければならない正しい使い方、リスクを回避していただくこと、また事故などの再発防止を行うためのリコールなども製品安全のスマート化を通して行うことも既に賛助会員により開始されています。

最新！PL対策2022導入ガイド
動画でご覧いただけます。>>

<https://youtu.be/vXxNdPg-83U>



INDEX

1～5P・・・新年のごあいさつ

6P・・・新年度の事業について

7～8P・・・取扱説明書の実態調査



安全・安心な社会の醸成を

一般社団法人PL研究学会会長
大羽宏一

明けましておめでとうございます。

PLnews の発刊に当たり、新年のご挨拶を申し上げます。

わが国はモノづくりにおいて世界で一番の高品質な製品を製造しているとの評価が高いところ。そしてこれからは、この品質管理をさらに進め、一層安全性を付加し、もって安全・安心な社会の醸成を目指すことが求められると考えています。

そのため、本年4月15日には、PL対策推進協議会の大会が「SDGs」をタイトルの主題とし、製品事故の未然防止策の研究のために開催されることは、まことに時宜を得たことであると思っています。私の所属する一般社団法人PL研究学会も「製品の安全」を中心的テーマに掲げていることから、種々の関連もあることもあり、参加をさせて意見交換していきたいと思っております。

恭賀新春



新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしく願致します。

一般社団法人 PL 研究学会

〒173-0013

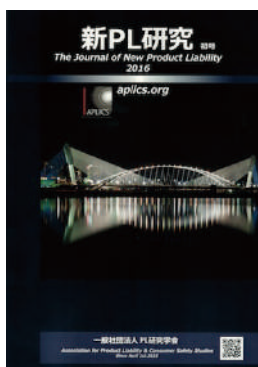
東京都板橋区氷川町47-4

電話 / FAX 03-3962-5515

<https://aplics.org>



学会誌のご案内



新 PL 研究 6号 一冊 1,500円 (外税)

購入ご希望の方は、以下の
学会サイトからご相談ください。



<https://aplics.org>

取扱説明書実務ガイド2020

取扱説明書の制作や監修を行なっている方々に向け「取扱説明書ガイドライン2016」を元に実務用に必要な内容を筆者の出版したものなどから転記補足した最新版です。



購入は
こちら >>



一冊 2,000円 (税込)

https://pl-taisaku.org/?page_id=2396

卸売業に対する製品安全対策を

首都圏担当理事 渡辺欣洋



明けましておめでとうございます。
2019年に突然現れた COVID-19 ですが、今年はおミクロン株に変異して猛威を振るっております。そのような中、東京都を主体に首都圏を担当するのが東京事務所の役割です。COVID-19により行動の自由が制限され、営業活動が思うようにできませんが、他に先んじて ZOOM システムを採用し、昨年は4月の第2回大会は SDGs をテーマとして取り上げて開催、11月には新潟燕三条地場産業活性化を目的に、一財)電気安全環境研究所 (JET) と一社) PL 研究学会が主催の「SDGs 分科会第1回」への協賛として参加しました。

また、製品安全の啓発として事業者を対象としたセミナー及び勉強会を十数回に亘り開催し、多くの参加者から好評を得ております。本年度においても来る4月15日(金)には、第1回シンポジウムを明治大学名誉教授 向殿政男様をお迎えして基調講演をいただくと共に、現在、製品安全コンサルを通して社内体制構築に取り組んでいる賛助会員の方々の実績などをシンポジウムにて公表いたします。

当協議会は、従来事業者に向けた製品安全啓発を中心とした活動を行って参りましたが、本年度は、製品事故の未然防止及び再発防止を目的とした親しみやすい動画の作成に力を入れ、身近な問題として認識いただくことを計画しております。特に、東京事務所としては、一般の方に対する製品安全啓発としての取り組みの一環として、都内ボランティア団体との連携による年少者に向けた木工教室や成人に向けてのリチウム電動工具などの使用を通じたリスク確認など直接的指導を行います。

製品安全は、いかなる環境でも必要なことであり、多くの事業者及び消費者が製品安全の重要性を認識していただくことが当協議会の役割と理解して、その目的達成のために邁進する所存です。

災害の備えと新しいリスクを考える

関西担当理事 中島 修



明けましておめでとうございます。
私自身が阪神淡路大震災で被災してから27年が経過しました。早朝自宅は全壊し電気以外のインフラも行政執行機関も壊滅、大災害なのにサイレンの音ひとつない静かな朝でした。マスメディアが報道しない中で一般人の Twitter 映像が神戸で起きたことを初めて知らせ、全世界が SNS の情報発信力に気づいた出来事でした。

10年前の東日本大震災では、東京の計画停電でランタンと充電電池と水を探し歩いた日々でした。原因は原発の電源消失。共通して電気の大切さと便利さ、それに頼る社会構造を守る必然を感じました。

当時に持っていける今の道具を1つ選ぶなら、27年前も10年前も EV 電気自動車です。電気は復旧が早く供給も毎日あり、家がなくても冷暖を取れて大容量の蓄電でさまざまな生活用品機器を維持できます。4年前の台風21号では1日以上停電も自宅の EV で難を逃れ実感した次第です。

再エネと蓄電と EV シフトが生み出す安価な大容量リチウムイオン電池により、今後の10年は急激に生活用品が様変わりし、新たなリスクが生まれます。売る側、買う側が正しい表示と使い方を知ってリスクを未然に回避できるような情報共有を目指します。3年後は大阪万博です。次の大災害も踏まえ、私たちの生活をどうやって守り未来へ進化していくのかを知って考える最大の総合イベントではないかと思えます。

本年も製品安全に関わる活動に尽力いたしますのでよろしくお願い申し上げます。



新年のごあいさつ

東北、宮城の地から大きな成長を
下支えいたします。

東北担当理事 山岸義彦



明けましておめでとうございます。本年もご支援をよろしく願い致します。

東北チームは、協議会の事務局、PL 検定の事務局、時には PL 研究会事務局と一連の事務局機能を担い日々奮闘しております。

新年度の改革として、組織の「見える化」を目指し、PL 対策検討委員会、PL検定委員会など各種委員会が組織され、活動を開始いたしました。検定上級に合格された方も委員会における各種の研究・勉強会に参加できます。委員会の活動が、当協議会を活性化させる大本となります。その土台として機能すべく心してまいります。

さらに、東北工業大学にて PL 対策の授業が本格化し、ライフデザイン学部の二つの学科に授業が組み込まれ、並行して PL 検定の受験者の申し込み受付も行いますので、受付から合格証のお渡しまで滞りなく対応できるよういたします。

PL 検定の講義内容は、事業者に寄り添った製品事故未然防止・再発防止にブラッシュアップしてまいります。大学生においては、PL 対策の基礎を学ぶ、製品事故とは何か、予防・再発防止を学ぶようになります。そうしたことに合わせてテキストの改定も必要になります。

これらの活動を基に、消費者基本法第 6 条にあるように、事業者団体として賛助会員様が経済産業省 PS アワードを受賞できるような取り組みを支援していきたいと考えております。

お手元の取扱説明書を評価してみましょう

個人的な技術力や表現力、経験により作られる取扱説明書は、現在の取扱説明書に求められる機能 欠陥や欠損などを起こし易くなっています。「取扱説明書ガイドライン」に則り、消費者へ伝える努力、長期にわたりそのデータを保管できるかなど、「事業者の PL 対策の取り組みの質」を客観的に判断する第三者検証の活用を通して「製品安全評価」の一助とすることが出来ます。

まずは、無料で検証できる「取扱説明書簡易検証プログラム」で自己評価をしてみましょう。



https://pl-taisaku.org/?page_id=1566

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願致します。

謹賀新年



株式会社 新井才助・リコー

〒955-0081

新潟県三条市東裏館 2-17-15

<https://www.nagaoka-rikoh.co.jp>

謹賀新年

おかげさまで80周年

私たちは、お客様のご要望を
「まるごと、しっかり」引き受ける
三条印刷の「まるしか隊」です。

Sanjo Graphic & Media Supporting
三井物産株式会社

■営業品目 / ポスター・パンフレット・チラシ・出版(作品集・書籍・記念誌)・広告代理店 他
本社: 〒955-0072 新潟県三条市元町9番3号
TEL. (0256)32-2281 (代) FAX. (0256)32-2670
URL <https://sanjo-prn.co.jp>



■新潟支社
■長岡支店
■関越営業所
■上越営業所
■高崎営業所

燕三条 ものづくりの街として

中越担当理事
長岡信司



謹んで新春のお慶び申し上げます。

昨年は、新潟県三条市でAPLとして初の大会を開催いたしました。コロナ禍の中での開催でしたが、何とか無事終えることができ関係者の皆様には大変感謝しております。

この燕三条という地区は、金属加工はもちろん金型屋も木工屋もプラスチック成型等点在し、あらゆる製品を生産できる“ものづくりの街”と言われています。そして製作された商品を流通できる企業も多く点在しています。しかし消費者（使用者）に対してどこまで安全性を担保しているかわかりません。私たちは作りっぱなし売りっぱなしではなく、使用者が正しく使い、永く安全に喜んで使っていただくような製品が完成するよう、また販売できるよう、企業とAPLをうまく結び付けて行きたいと思っています。この地区から安心・安全という言葉が飛び交うような街にしたいと思います。皆様のご協力宜しくお願いします。



APLの果たす役割

監事
椿 克美



新年あけましておめでとうございます。

今年度より監事を拝命いたしました。微力ではございますが精一杯務めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私は2006年よりオーガニック食品をイタリアから輸入販売しております。日本でのオーガニックは「有機」と訳されますが、本来のあり方とは少し違うように思います。「organic」の語源は「源」を表す「origin」であり、「organic」のあり方は「命の循環」そのものなのだと思っています。

これは2015年に国連サミットで採択された持続可能な開発目標SDGsにつながるもの。ようやく日本でも徐々に認知され、積極的に取り組む人や企業が増えてきました。

with コロナの時代において消費者は手にするものひとつひとつに価値を求めるようになりました。その流れの中でPL対策推進協議会が果たすことのできる役割は大きいものと期待しています。

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

謹賀新年

カリモク家具

〒470-2191
愛知県知多郡東浦町大字藤江字皆栄町108番地

<https://www.karimoku.co.jp>

謹賀新年

 **株式会社 高儀**

〒955-8655
新潟県三条市塚野目2341-1
<https://www.takagi-plc.co.jp>

新年度の事業について

AJPL
PLnews

2022年1月号

PL 検定のさらなる飛躍の年に

PL検定担当理事 山岸義彦

本協議会においてPL 検定が導入されて12年になります。受検者は右肩上がりに増えてきているものの社会一般への普及には、多くの課題があります。例えば、日々変化していく製品安全の取り組み、最新のPL 対策、これらを検定内容に反映して行く事が求められます。web 媒体による申し込みのしやすさ、Zoom 会議の運用による受講のしやすさ、テキストの改定・充実、これらの課題を整理し「PL 検定」の社会的意義、社会的貢献を明確化し、さらに価値を向上し、安心・安全の社会づくりに貢献すべく、新体制にて運営・展開する計画です。

PL 対策の基本から専門家の入口



24h 受付

PL 検定[®]のご案内

web で受験

初級 5,280 円

PL 検定 検索

簡単に製品安全のスマート化が実現！

当協議会で勧めている「scodt cloud」システムのご紹介です。このシステムで使用するQRは「GTIN (JAN コード)」と「ロットを示す年月・自社のコード」をグローバル標準で組み込んだ流通情報標準化機関 (GS1) で批准されたもので、今コンテンツがなくても今までの JAN シンボルと同様に、QR を製品本体やパッケージなどに表示しておけばいつでもコンテンツを追加、変更などができます。流通情報標準化に準拠したシステムですから、この先の流通システム自動化に対応できます。

詳しくはこちら >>



<https://scodt.com/scodt-about-3>

安全点検アプリ「すこどっと」

超スマート社会に対応した安全点検アプリ！

- リコール対象製品の使用者～購入者～小売店～サプライチェーンへのダイレクトな通知
- 通知したアクセス履歴の集積
- 中古市場も含めた市場監視・モニタリング etc...



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願致します。

謹賀新年



有限会社 栄工業
Sakae industry

〒959-1207

新潟県燕市三王淵 1183

<https://sakae-industry.com>

謹賀新年



株式会社
ぷらっとマルシェ

〒115-0042

東京都北区志茂5-16-15

<https://www.joan-i.com>

農業機械における危険な実態

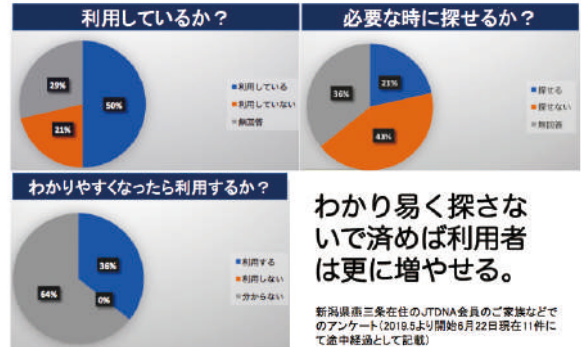
当団体では取扱説明書の実態調査としてアンケートを行ってきました。その結果を簡単にご報告させていただきます。

右のグラフは新潟県の三条地域で農業従事者に行った農業機械の取説についてのアンケートです。農作業中の事故は作業者の高齢化などにより年々増え続けており、特に農業機械を使用した際の誤使用による事故が多発しています。そこで、アンケートを取り、実際の取扱説明書の使用状況を確認しました。取扱説明書を利用しているかの質問では、半数が「利用している」と答えたのに対し、「必要なときに探せる」方は2割しかいませんでした。

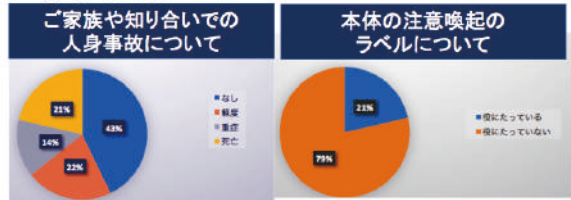
また、農業機械での事故について、半数以上が知り合いや家族に何らかの事故が起きているという驚異的な数字があがりました。さらに、農業機械に貼り付けられている危険を示す本体ラベルについては実に8割が「役に立っていない」という結果になりました。販売時の安全に関する説明に関しても、67%が操作説明で終わってしまっている事がわかりました。

この結果から、製品の危険について詳しい説明がなされず、取扱説明書や本体表示が安全を守る上で重要な役割を担っていることがわかります。取扱説明書をいつでも閲覧できるようにモバイル対応の最適化を図り、本体表示を適切な表示に見直すことで、誤使用による事故は軽減できると思われます。

農業機械の取扱説明書について

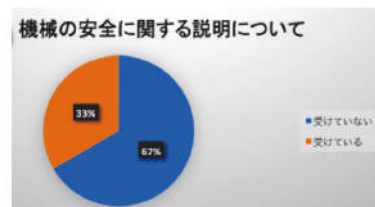


農業機械などが原因の事故と 本体表示



取扱説明書のモバイル最適化をはかり、本体表示の見直しで誤使用はかなり低減できると思われる。

販売引き渡し時の安全に関する 販売時の説明について



実に67%は説明を受けておらず運転操作説明で終わっている！

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願致します。

トリセツデータナビ 検索

有限
会社 **祥和舎**

Torisetsu Design Works showasha.com

代表取締役 **山岸義彦**
仙台市太白区恵和町35-28
TEL:022-247-8041

CSR 調達は最新の PL 対策で！

超スマート社会での製品安全対策は当社の R&D コンサルティングでベネフィットを生み出します。



<https://tdn-japan.com>

TDN インターナショナル株式会社

〒173-0013 東京都板橋区氷川町 47-4 アビタシオン K 1
Tel 03-3962-5515 info@tdn-japan.com

モバイル対応への大きな流れ

右のグラフは一般消費者の実態調査として東北工業大学やみやぎ生協会員に取扱説明書に関するアンケートを行ったものです。

「取扱説明書は読みますか」の質問に対し、年配と若年層で読む、読まないが逆転しており、学生は7割近く読まず、年配層は比較的読む傾向にあります。

読まない理由としてあげられている「見ただけで読みたくなる」、「読んでも意味が分からない」は、事業者の問題と言えます。使用者に必要な情報を分かり易く伝える努力がされているのか疑わしく、ここを改善できれば、「読まない」とする使用者を半分は減らせそうです。

保管する理由では「後から使い方がわからなくなった時に確認する」が多く、読まなくても使い方が分かっても、わからなくなったら取説に戻るのです。したがって、取扱説明書の基本的な役割は認識されていると言えます。

一方、保管しない理由として「面倒くさい」もあります。使用方法の確認、保証時の為などで保管するも、「面倒くさい」のです。大小様々、様式も様々、検索機能が考慮されていないのが理由です。消費者の保管性を考えたときに、今や取説を Web 上に用意する事は必須と言えます。

モバイルでの閲覧に関しては、7割近くの方が肯定的でした。モバイルの普及率が上がり、小中学生でも当たり前になっています。そうした時代背景を考えると、取説を簡単に検索し読み取る事を可能とすることは、正しい使い方を分かり易く伝える上で必須事項となっていると言えるでしょう。

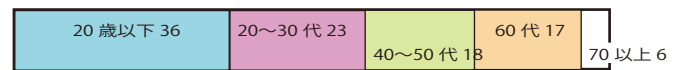
最後に、消費者基本法で言われている事業者の責務を全うし、より使用者に寄り添った取扱説明書へ改善する余地と可能性は大いにあると言えます。そして取扱説明書をきちんと読む文化が醸成され、製品事故を減らす一つの要因になる事を期待しております。

- ①調査地域 宮城県仙台市
 - ②調査対象 大学生と生活協同組合の組合員活動を担っている女性
 - ③調査方法 アンケート用紙に記入いただき回収
 - ④有効回答 508
 - ⑤調査期間 2016年～2019年
- ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

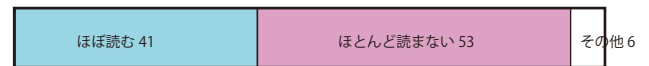
1：性別



2：年齢



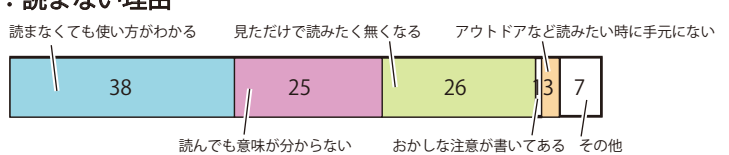
3：取扱説明書は読みますか



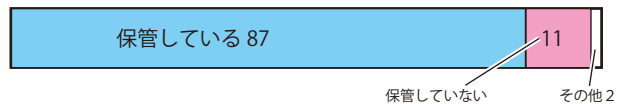
4：読まれる場合の目的



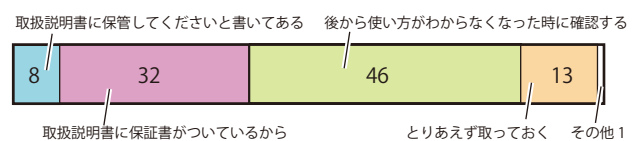
5：読まない理由



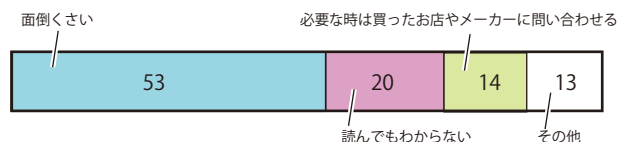
6：保管していますか



7：保管している理由



8：保管しない理由



9：モバイルで取説を見ますか

